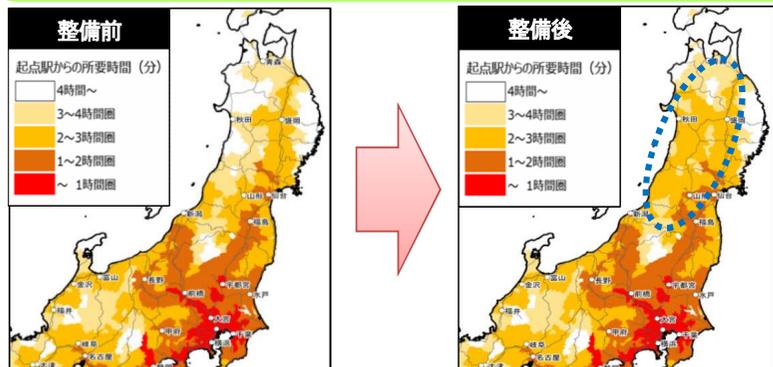


羽越・奥羽新幹線を活用した地域ビジョン 概要

首都圏等との移動時間短縮により地方への人の流れが加速

◆東京駅を起点とした所要時間の短縮 ※現行所要時間は秋田・山形新幹線（最速）による比較

- ・東京駅～秋田駅間【現行】3時間37分 ⇒ 2時間23分 ▲74分短縮
- ・東京駅～山形駅間【現行】2時間26分 ⇒ 1時間40分 ▲46分短縮
- ⇒日本海側が日帰り圏(3時間到達圏)となるなど、秋田県・山形県を中心として、交流圏と交流人口が大幅に拡大

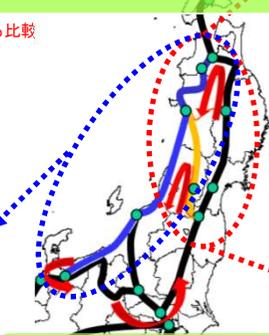
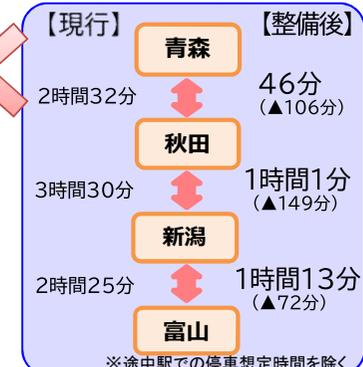


日本海側の域内連携が加速（日本海側の「遠い近所」から脱却）

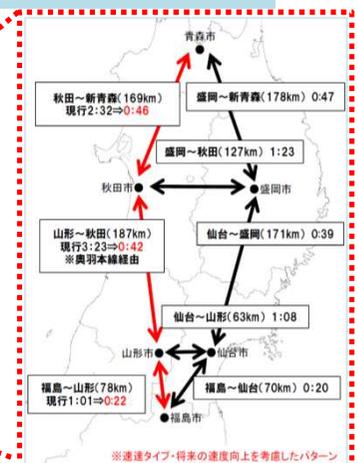
◆沿線都市間における所要時間の短縮

- ・新潟駅～秋田駅間 3時間30分 ⇒ 1時間1分 ▲149分短縮
- ・富山駅～新青森駅間 4時間28分 ⇒ 3時間2分 ▲86分短縮
- ⇒日本海側の主要都市間の結びつきが大幅に強化

※現況所要時間は2019年3月時刻表（最速）による比較



・日本海側の都市間所要時間が太平洋側と同程度まで短縮
⇒日本海側都市の成長につながる交流・連携ダイヤモンドの形成



羽越・奥羽新幹線により実現を目指す地域発展の将来展望と政策展開の視点

新型コロナウイルス感染症終息後に想定される社会的要請(分散型社会の形成)にも貢献

観光

◆国内外の活力が行き交う循環・周遊型の交流圏域の実現

- ◇ 特長ある伝統・文化、豊かな地域資源、多彩な交流基盤を強みに、国内外との交流を加速

日本ならではの価値を発信する「日本海歴史・文化回廊」
沿線地域の空港、港を新幹線が結ぶ「地域連携型立体観光」

産業・経済

◆交流拡大により多様なイノベーションが生まれ出される自律型の経済圏域の実現

- ◇ 高い技術と豊かな自然を強みに、地域と国土の発展を支える高付加価値型の産業を形成

医療やバイオ分野の強みを活かした「先端医療・バイオ産業回廊」
食料の安全保障に寄与する「日本の食産業・食文化基地」

暮らし生活

◆都市と地方の共創・共助による持続可能で活力ある地域社会の実現

- ◇ 安全・安心で豊かな自然・社会環境を強みに、新たなビジネス・ライフスタイルを発信・提案

地域の強みを活かした「クリエイティブ人材が集う価値創造拠点」
都市部の兼業・副業希望者への「逆指名型・テーマ型人材誘致」

都市機能・防災

◆地域の暮らしを支え、我が国の持続的な発展に資する、活力ある重層的な圏域の実現

- ◇ 都市と周辺部、都市同士がつながり、新たな魅力や活力を生む、連携・交流によるまちづくり・圏域づくりを推進

対岸諸国との交流拠点となる「環日本海交流ゲートウェイ」
有事に対応した「国土(首都圏・太平洋側)のバックアップ圏域」



大ゴールデン回廊

国土形成

大規模災害時のリダンダンシー機能

集中型から分散型ネットワークへの転換

新たな“広域交流圏”の形成

“羽”越・奥“羽”新幹線は「人」の交流を通して、日本全体を飛躍させる“ダブルウィング”

羽越・奥羽新幹線整備を活用した政策展開と地域発展のイメージ

観光分野

◆「日本海歴史・文化回廊」の形成

⇒各地の観光・歴史資源を結ぶ広域周遊観光ルートの形成や沿線県連携による一体型プロモーション等の展開など、日本の古くからの価値を体験できる地域として発展

◆陸・海・空の交通機関を組み合わせた「地域連携型立体観光」の展開

⇒空港・港湾とも近接する新幹線ネットワークを最大限に活用し、各地の多様なゲートウェイ(玄関口)を活用し多彩な周遊、長期滞在が可能な地域として発展



◆「新しいテーマツーリズム」の展開

⇒羽越・奥羽新幹線や二次交通を効果的に組み合わせた多彩なテーマ型ツーリズムを国内外に向け戦略的に発信・提案していくことにより、多種多様な旅行ニーズへの対応が可能なエリアとして発展

<美酒・美食>

➢ 良質な農林水産物・加工食品、郷土料理、酒蔵・ワイナリーなど



<ヘルス・メディカル>

➢ 温泉、森林セラピー、高度医療施設 など



<ネイチャー・アグリ>

➢ 世界自然遺産、ジオパーク、農業体験、豪雪地体験 など



<ローカル鉄道>

➢ 津軽鉄道、秋田内陸縦貫鉄道、北越急行、山形鉄道 など



既存インフラと新幹線が結び付き形成される新たな広域連携のネットワーク

産業・経済分野

◆「先端医療・バイオ産業回廊」の形成

⇒今後更なる成長が期待される化学・医薬品製造業、バイオ産業等を中心に関連産業の立地・集積や地域内外の企業・研究機関との交流を促進することにより、沿線地域全体で、基礎研究から事業化までフルセットで担える産業クラスターが形成された地域として発展



◆「次世代エネルギーフロンティア」の形成

⇒再生可能・地域分散型エネルギーのポテンシャル等を基に、研究機関や設備関連企業の立地・集積を図ることで、次世代エネルギーの実用化を促進し、安定的なエネルギー供給や産業のリスク分散を担う地域として発展



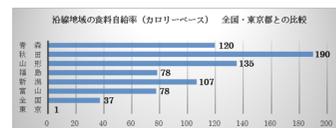
◆「環日本海リサイクル産業ネットワーク」の形成

⇒日本海沿岸の各リサイクルポートの機能分担や後背地を含めたりサイクル関連産業の立地・集積を図ることで、対岸諸国を含めた広域的な静脈物流網の拠点として発展



◆「日本の食産業・食文化基地」の展開

⇒首都圏等でのマーケティング活動、新たな魅力ある加工食品の開発や海外への輸出展開など平時・有事を問わず安定的な食料供給が可能な地域として発展



◆「貨物新幹線による新たな価値創出・発信プロジェクト」の展開

⇒新幹線の速達性や定時性や全国につながる新幹線ネットワークを活用し、果物などの生鮮物や電子部品などの地元生産の高付加価値品を迅速に届け、地域の魅力や価値の発信を図ることで、誘客拡大が活発に行われている地域として発展



暮らし、生活分野

◆「クリエイティブ人材が集う価値創造拠点」の創出

⇒新幹線による首都圏等からのアクセス性向上を活かし、多様なクリエイティブ人材の移住や二地域居住、ワーケーション等が拡大し、新たな価値を生み出す知的創造の拠点として発展



都市部の住民との新しい関係の形成を担う、古民家を活用した交流拠点施設(秋田県五城目町)



デザインと先端技術の融合により、ものづくりの高付加価値化を支援する「富山県総合デザインセンター」(富山県高岡市)

◆「逆指名型・テーマ型人材誘致」の展開

⇒首都圏等の兼業・副業希望者をターゲットに、地方部において不足する人材と地方での貢献を希望する人材のマッチングを行うことで、地域活力の維持・向上を図り、持続可能性の高い地域として発展

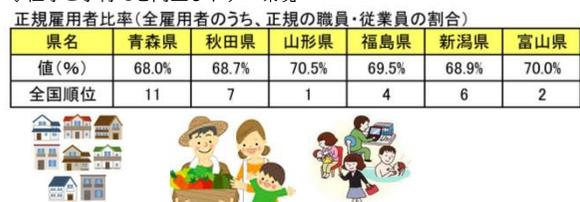
◇副業等に対する意識の変化(新型コロナ拡大前との比較)



◇ゆとりある暮らしの実現に適した住居環境



◇仕事と子育てを両立しやすい環境



都市機能・防災分野

◆「環日本海交流ゲートウェイ」の形成

⇒対岸諸国との近接性を活かし、空港・港湾をハブとしつつ、新幹線をはじめとする鉄道及び道路との有機的な接続を図ることで、海外との間で人・情報・技術が活発に行き交い、国際性の高い多様な人材の育成や継続的な技術開発が行われ、高い競争力を持った地域として発展



図 環日本海・東アジア諸国図

出典:富山県土木部

◆「国土(首都圏・太平洋側)のバックアップ圏域」の形成

⇒大規模災害の被害等の少ない、地域の特性を活かし、企業の製造・研究開発拠点の分散化を通して、国土全体での事業継続性を確保するとともに、物流のバックアップ拠点としての役割を強化

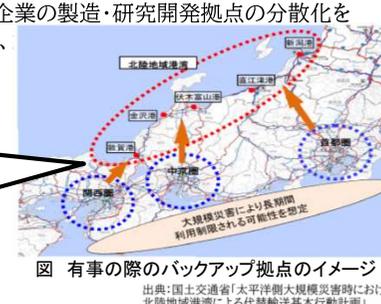
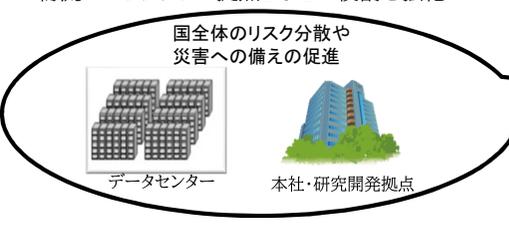


図 有事の際のバックアップ拠点のイメージ

出典:国土交通省「太平洋側大規模災害時における北陸地域港湾による代替輸送基本行動計画」